

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和07年02月25日

計画の名称	南陽市における安全な暮らしの実現（防災・安全）（重点計画）														
計画の期間	平成30年度 ～ 令和04年度（5年間）												重点配分対象の該当	○	
交付対象	南陽市														
計画の目標	下水道施設の整備、耐震化及び計画的な改築更新を行い、安全安心で快適な暮らしを実現する。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		320	A	320	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）		0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H30当初)	(R2末)	(R4末)
1	①下水道における浸水対策（近年の浸水被害箇所）の主要な幹線管渠等整備率を50.0％（H30）から57.0％（R4）に増加させる。			
	①下水道による浸水対策の主要な幹線管渠等整備率	50%	54%	57%
	浸水対策幹線管渠等完了済み延長（m）／浸水対策を実施すべき幹線管渠等延長（m）			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
下水道事業	A07-001	下水道	一般	南陽市	直接	南陽市	管渠（ 雨水）	新設	吉野川左岸雨水幹線（浸 水対策）	□1000×1000mm・U800×800 mm L=0.3km	南陽市	■	■				110		—
	A07-002	下水道	一般	南陽市	直接	南陽市	管渠（ 雨水）	新設	吉野川第1・2雨水幹線（ 浸水対策）	U2000×2000 L=0.3km □20 00×2000 L=0.1km	南陽市		■	■	■	■	210		—
											小計						320		

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
南陽市都市計画審議会による	令和7年2月
	公表の方法
	市ホームページ掲載による
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	浸水対策の主要な管渠整備率については56%となり目標に達していない。要素事業の吉野川左岸雨水幹線の浸水対策として効果を発揮しており、整備後において周辺の浸水被害は減少傾向である。また、要素事業の吉野川雨水第1、2雨水幹線については、事業区域(供用)まで幹線整備が到達していないことから効果の発現に至っていない。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	
雨水幹線整備（吉野川雨水第1、2幹線）について、効率的且つ効果的な事業進捗を行うことで被害軽減に繋がっていききたい。また、近年のゲリラ豪雨などの災害を想定し浸水想定区域図の作成などソフト対策についても取り組んでいきたい。	

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	57%	物価高騰に伴う事業費の上昇によるもの
	最 終 実績値	56%	

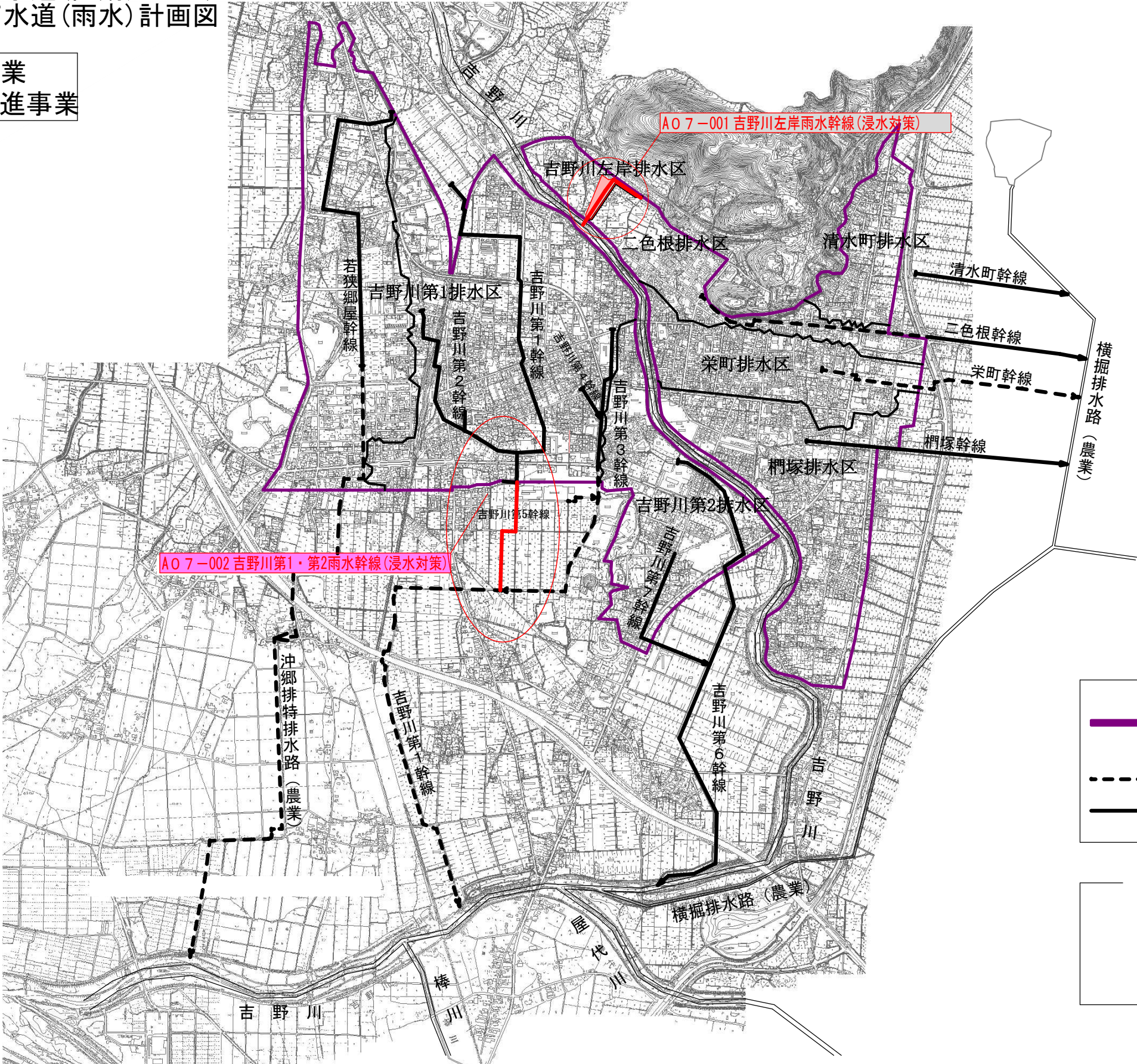
(参考図面) 防災・安全交付金

令和元年8月1日

計画の名称	南陽市における安全な暮らしの実現（防災・安全）（重点計画）		
計画の期間	平成30年度 ～ 令和4年度（5年間）	交付対象	南陽市

最上川流域下水道(置賜処理区)
南陽市公共下水道(雨水)計画図

A07 基幹事業
C 効果促進事業



凡 例

- 下水道法による事業認可区域（排水予定区域）
- 既設幹線
- 幹線整備

整備予定箇所の色分け

- 新設（赤）
- 増設（青）
- 改築（緑）